

Office 365に移行して完全なシングルサインオンを実現したい、同時にActive Directory (AD) のポリシーとユーザーステータスに基づいて確実に認証を行いたいとお考えの方も多いでしょう。Microsoft社のADFSは、ユーザーのActive Directoryアカウントを使用して完全なシングルサインオンを実現できます。Office 365へのアクセスにパスワードを再入力する必要がなく、ADドメインにログインしたユーザーであればすぐにサインインできます。そして、すべての認証がオンプレミスのActive Directoryに対して直接行われます。

Oktaも、Office 365への完全なシングルサインオンとADを使ったセキュアな認証を実現できる、ADFSに代わるソリューションです。本書では、ADFSではなくOktaを選ぶべき3つの理由をご紹介します。

1. 総所有コスト (TCO) が少ない

可用性に優れ、ファイアウォール外へのアクセスが可能なオンプレミスSSOのセットアップには、それなりのコストがかかります。

初期設定およびセットアップ:	5万ドル
Office 365への統合:	2万ドル
ハードウェア (最低4台のサーバー):	4万ドル
ハードウェアメンテナンス:	4,000ドル/年
OS、証明書、ソフトウェアパッチの更新:	1万ドル/年
初年度のコスト総額:	11万ドル
年間メンテナンスコスト総額:	14,000ドル/年

Oktaは、最新かつ軽量のエージェントを使ってOffice 365をActive Directoryに接続します。導入済みのWindowsマシンで稼働するため、専用のサーバーもファイアウォールの変更も不要です。自社環境内の任意のWindowsマシ

ンに2つ目のエージェントをセットアップすれば、自動的に高可用性 (HA) を確保できます。Oktaでは、Oktaクラウドサービスから自動的にエージェント全体のHAと負荷分散を処理します。

Oktaの軽量なエージェントを使ってクラウドに移行すれば、オンプレミスのフットプリントを最小化できます。サーバーやオンプレミスソフトウェアの導入、更新、管理が不要であるため、TCOの削減が可能になります。

2. 導入がスピーディ

Office 365のActive Directoryへのフェデレーションを実現するために、オンプレミスのSSOツールを適切かつ安全に設定するには、少なくとも6カ月以上かかります。

Oktaなら、1時間以内でオンプレミスのActive Directoryに接続してOffice 365のテナントをセットアップできます。作業は不要でセキュリティも確保できます。Adobe社では、25,000人の従業員向けのOffice 365にOktaを導入し、わずか3週間で実運用を開始できました。また、シートンホール大学では、32,000人の職員と学生向けにOktaとOffice 365を4週間で導入しています。

3. Active DirectoryやOffice 365環境の複雑さを解消

ユーザー名の形式が異なる複数のADフォレストをお持ちの場合でも、複数のOffice 365テナントをお持ちの場合でも、1つのOktaテナントですべてのディレクトリとOffice 365環境に接続できます。Oktaではすべてのユーザーを一元管理できるため、整合性が確保され、適切なOffice 365テナントへのアクセス権をユーザーに付与することができます。

AD環境の複雑化の理由が、企業合併や統合であれ、経年によるものであれ、AD環境を整理しながらOffice 365を展開できるOktaをぜひご検討ください。